

令和4年度

第2回岐阜県スマート農業推進協議会

議事要旨

開催日時：令和5年2月20日

開催場所：県庁3階 会議室304

令和4年度 第2回岐阜県スマート農業推進協議会 議事要旨

1 開催日時：令和5年2月20日（火） 10：00～11：30

2 開催場所：県庁3階 会議室304

3 出席者：別添「出席者名簿」のとおり

4 内容

(1) 開会

後藤農政課スマート農業推進室長

(2) あいさつ

深谷農政部農業技監によりあいさつ

(3) 検討事項

ア 岐阜県スマート農業推進計画（第2期）の策定について

<上野技農政課スマート農業推進室術課長補佐兼係長から資料1～3により説明>

【主な意見等】

堀口委員) 4ページ目の「4年後の目標」の表について、1期目の目標に対して結果がこうだったということが分かるよう修正してはどうか。

5ページの将来像のイメージについて、これは本当に「将来像のイメージ」という表現が適切なのか。「先進的なものを広めていきたい姿」ではないか。

委員が岐阜県ではスマート農業をこうやって進めているということをPRできるよう、他県と比べて一歩進んでいる取組みや独自の取組みといった県自慢の取組み2、3点を、（計画に入れるということではなく）別に整理してもらいたい。

計画中の年度表記に西暦、令和と揺れがある。

⇒後藤室長) 表記揺れについては他の県の計画を確認し修正する。

嶋津会長) 重点施策について、従来とスマート農業技術を比べた場合の利点や、明らかになった点を検討したうえで、具体的に何を指すかを書くといい。

例えば技術研修などで農業DX指導者を育成することはもちろん大事

だが、具体的にどこに重点を置くかが分かると良い。他にも11ページの(5)技術研修では、フランネルフラワーについてAI技術を活用しているが、抽象的。個人的にもう少し具体的に記載すると良いと思った。また、9ページの(2)技術の実証に記載がある「グリーンな栽培体系への転換」については具体的な案があるのか。「取り組む施策」が全体的に抽象的。

⇒上野係長) 「グリーンな栽培体系への転換」について、産地がそれぞれ課題をもって実施しており、具体的には書きづらい。

堀口委員) 1期目でこういった成果があって、こういった課題があるから、2期目を策定する、という流れが記載されていると良い。

⇒後藤室長) 第1期の計画を3年間進めてきて、目標に対して実績が順調に推移してきた中で、DXや世界情勢でプラスアルファの課題がでてきたことで、第2期では対応した取り組みを加えたという整理をしている。趣旨の中で記載した。

年度内に来年度予算も含めてみなさんにご意見をいただきたいと考えており、そういった場面で、振り返りや、これからの、例えばグリーンな栽培体系の細かな話について、お示しできる機会を作っていきたい。

森委員) 例えば重点施策について、それぞれポイントになる部分はみな違うと考えられる。それをここで直してほしいと言う気はないが、具体的に進める際に、どのようなスケジュール感で実施していくのか分かる機会があると良い。

例えば、既にスマート農業推進員が育成されている状況で「推進員を開始します」と書いてしまうと、「まだ育成していない」という印象を受けてしまう。これからやるもの、やってきたものをもう少し区分けして記載できると良い。現状は、何がどこまで進んでいるかが見えづらいという印象。

⇒後藤室長) 「取り組む施策」に記載してあることは、すぐに対応可能な項目もあれば数年先になることもある。具体的なタイムスケジュールのようなものを考えて、計画に記載の無い部分は別に用意していくべきと感じた。作成したスケジュールについては別途委員から意見をもらい、実施していきたいのでご協力をお願いしたい。

(6) 閉会

後藤農政課スマート農業推進室長

以上